



「火災想定」の避難訓練～煙体験・起震車体験実施～

- 10月22日（木）に、「給食室より火災が発生」という想定のもと、避難訓練を実施しました。教頭先生の放送から安否確認の報告まで約4分。スムーズに避難できました。今回は上ばきのまま外に出ましたが、前回の反省を生かして、外に出たらかけ足（坂道はゆっくり）を守って、静かに行動してすばらしかったです。
- 講評では私の方から次のような話をさせていただきました。
 - ・火災で亡くなった方は、煙を吸って逃げ遅れたり倒れてしまうことが多い。
 - ・ハンカチで口をおおったり、姿勢を低くすることが大切である。
 - ・今年になって甲府市では50件以上も火災が発生している。
 - ・火事は、命はもちろん、みなさんの大切なものをうばってしまう。
 - ・昨年、世界遺産の沖縄の首里城が全焼し、また京都アニメーションスタジオで放火事件があり、多くの方が亡くなる痛ましいできごとがあった。
 - ・地震も火事もいつどこでおこるかかわからず、訓練・体験学習をしっかり行うことが、命や身体を守る。
- 今回は県立防災安全センターの望月さん、金丸さんに来ていただき、防災についての話を聞いた後、煙体験と起震車体験をしました。煙体験は、会議室で行いました。事前には煙でいっぱいにしてあり（さとうきびのにおいがして、吸っても身体に害はない煙）、ろうか側の西のドアから入って、東のドアから出ました。完全に前が見えないまでではありませんでしたが、歩くのにはこわく、みなさんは口をおおいながら、ゆっくりと低い姿勢で移動していました。起震車体験は校庭南側で行いました。学年によって揺れる大きさ（震度）をかえて、3～4人ひと組で体験しましたが、机の下にもぐって足をつかみその場にいるのがやっとという感じでした。6年生は1年生の時に体験していますが、今回は東日本大震災の揺れにちかい震度7の体験をしましたので、以前とは違った感想を持ったのではないのでしょうか？



やきいも集会、さつまいもをみんなで食べました！

- 10月28日（水）の朝、5年生が、さつまいもにぬれた新聞紙とアルミをまく作業を行ってくれました。業間休みに、全校児童が赤白のたてわり班ごとに、渡邊さんの方で準備してくれたまきの中に、さつまいもを入れました。佐野先生、小野先生の方で取り出してくれて、その後、昼休みに全校一斉に、掘ったやきいもを食べました。
- 天候の関係か、昨年より量が少なく、小さなものが多かったのですが、味はかわらず、みんなでおいしくいただきました。「自分たちでまいた種が成長し、それを収穫し、おいしくいただく」自然の恵み、収穫の喜びを感じます。スーパーに行けば何でも手に入る世の中で、こういった体験は貴重だと思います。
- みなさんの家でも、作物を育てている人もいます。最近、意外と農業に興味を持ち、作物を育てる若者の人口が増えてきていると言われます。専業農家はなかなかきびしいかもしれませんが、みなさんも将来、兼業あるいは趣味で農業をやってみませんか？（ちなみに私は退職したら、妻の実家の長坂町で農作業（田畑）のお手伝いができたら、と思っています。）



おいもが、おいしく焼けるといいなあ～

ほくほくして、甘くておいしい～

